



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

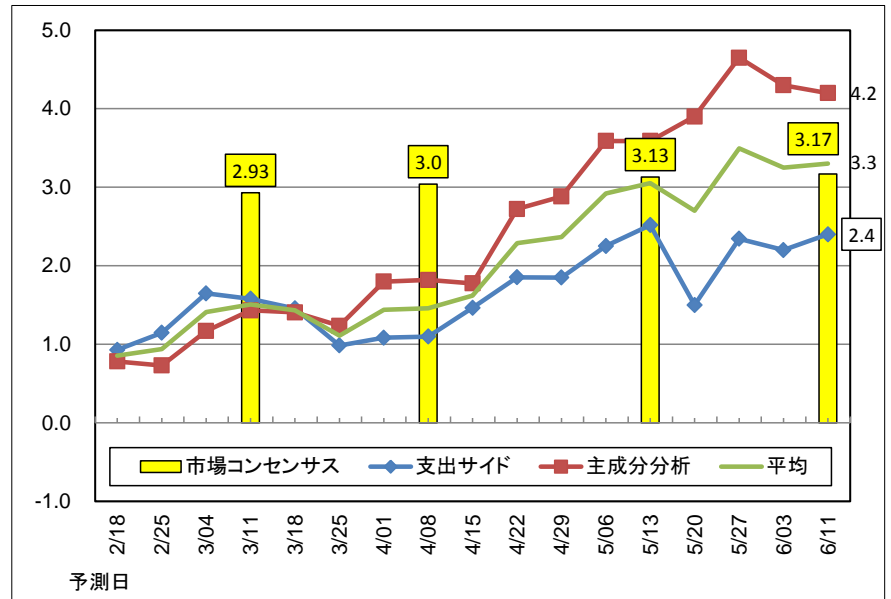
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年6月11日)

ポイント

- ▶今週の予測では先週発表された月次データと10日発表された1-3月期GDP2次速報値が更新された。
- ▶2次速報値によれば、1-3月期の実質GDP成長率は前期比年率+4.1%となり、1次速報値から上方修正された。その主たる要因は、民間企業設備と民間企業在庫品増減であり、いずれも成長率引き下げ要因であるが、マイナス幅が縮小した。
- ▶CQMは4-6月期の実質民間企業設備を6期ぶりの前期比小幅プラスを予測しているが、今週発表される4月の民間機械受注の結果は注目材料である。
- ▶先週注目した4月の消費総合指数は1-3月平均比+0.2%となったが、前期比から減速が目立っている。
- ▶今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出が引き続き拡大するため前期比年率+2.4%と予測。先週から小幅の上方修正である。4-6月期は強くはないが適切な成長となる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年4-6月期 (%、前期比年率換算)



<4-6月期は前期から幾分減速し、2%台半ばの適度な成長が期待できる>

今週の予測(6/11)では、10日までに更新された月次データ、5月の景気ウォッチャー調査、消費動向調査、4月の毎月勤労統計、消費総合指数、情報サービス業売上高、景気動向指数、国際収支状況及び1-3月期のGDP2次速報値を追加している。

10日発表された1-3月期GDP2次速報値によれば、同期の実質GDP成長率は前期比年率+4.1%となり、1次速報値の+3.5%から上方修正された。その主たる要因は、民間企業設備と民間企業在庫品増減であり、1-3月期法人企業統計の結果を反映している。いずれも成長率引き下げ要因であるが、1次速報値に比してマイナス幅が縮小した。CQMは4-6月期の実質民間企業設備を6期ぶりの前期比小幅プラスを予測しているが、今週発表される4月の民間機械受注の結果は注目材料である。

先週(5月月次予測)予告したように、CQMの支出サイドの予測は生産サイド(主成分分析モデル)ほど強くなく、4月の消費総合指数が重要で結果次第では成長率下方修正の可能性を指摘した。4月実績は前月比+0.1%と2ヵ月ぶりのプラス、また1-3月平均比+0.2%となったが、1-3月期(前期比+1.0%)からは減速が目立っている。もっとも4月の実質家計消費支出の実績(前月比-4.6%)に比して良好な結果といえよう。

先週から10日までに発表された新たなデータを更新した今週のCQM(支出サイド)は、4-6月期の実質GDP成長率を、内需と純輸出が引き続き拡大するため前期比年率+2.4%と予測する。先週の予測(+2.2%)から小幅の上方修正である。4-6月期は前期から幾分減速し、強くはないが適切な成長となる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690